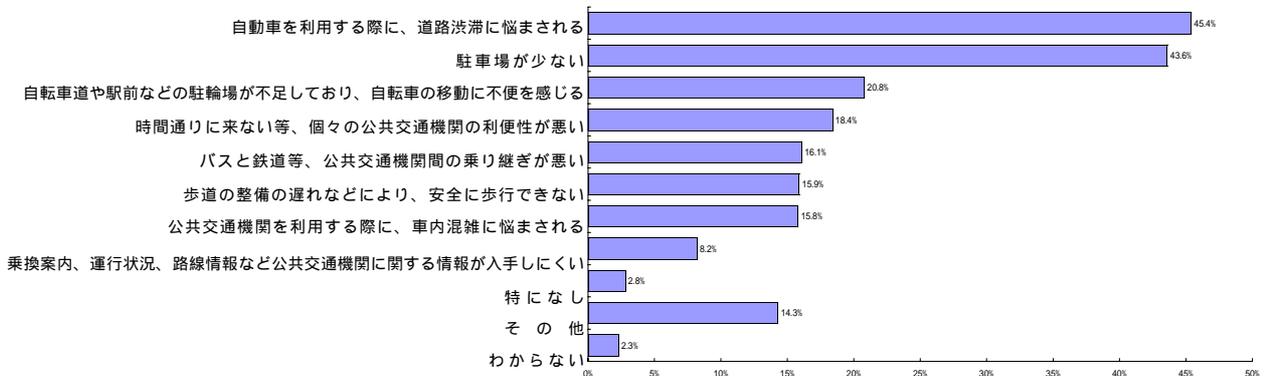


(1 1) 都市内道路に対するニーズ

世論調査によると、都市交通の問題点として、道路渋滞や駐車場の不足が上位を占める。また、居住地周辺の社会資本整備の要望は、道路が1位である。

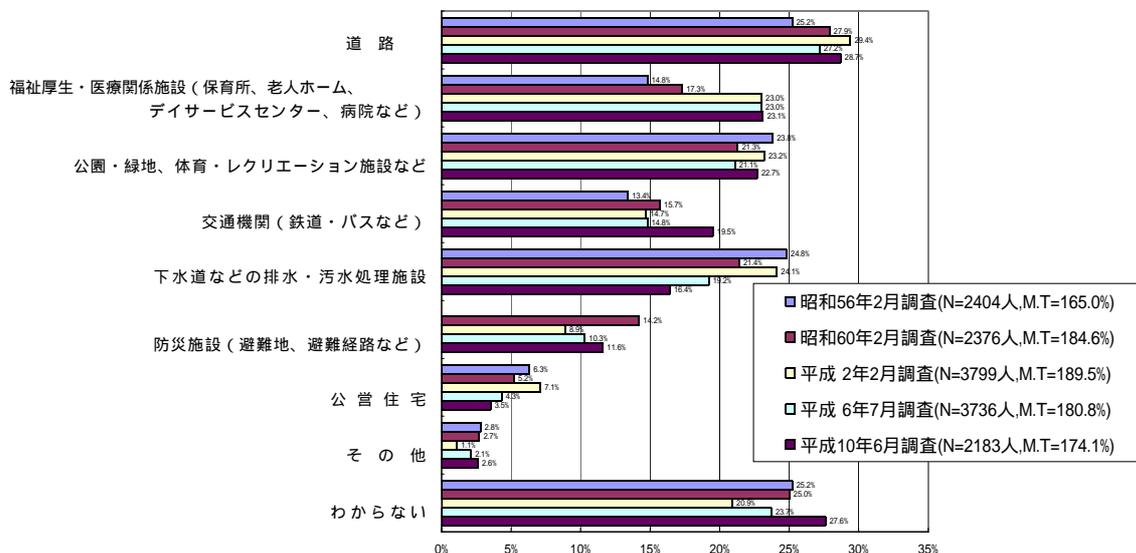
平成11年8月に実施された世論調査によると、都市内の交通に関して、現在の問題点を聞いたところ、「自動車を利用する際に、道路渋滞に悩まされる」を挙げた者の割合が約45%、「駐車場が少ない」を挙げた者の割合が約44%と高い。都市規模別にみると、50万人以上の都市（東京都区部、政令指定市を除く）で「駐車場が少ない」を挙げた者の割合が、東京都区部で「自転車道や駅前などの駐輪場が不足しており、自転車での移動に不便を感じる」を挙げた者の割合が高くなっている。

都市交通の問題点(複数回答 平成11年8月世論調査)



住宅地周辺の社会的な施設で特に整備してほしいものを聞いたところ、「道路」を挙げた者の割合が約29%と最も高い。昭和56年2月から平成10年6月（今回）までの5回の世論調査の全てにおいて、「道路」を挙げる者の割合が最も高くなっている。

住宅地周辺の社会資本(複数回答 平成10年6月世論調査)

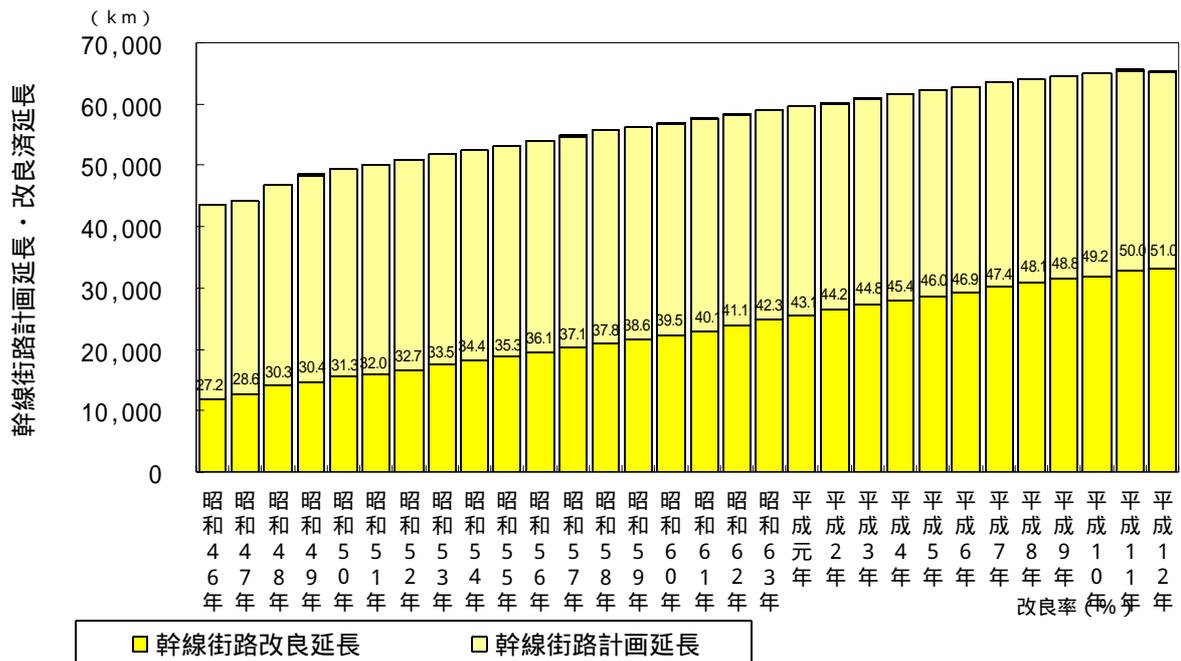


(1 2) 都市計画道路の整備状況

都市計画に定められた幹線街路のうち、約51%が改良済みで、現在の事業ペースでは完成までに60年以上を要する。

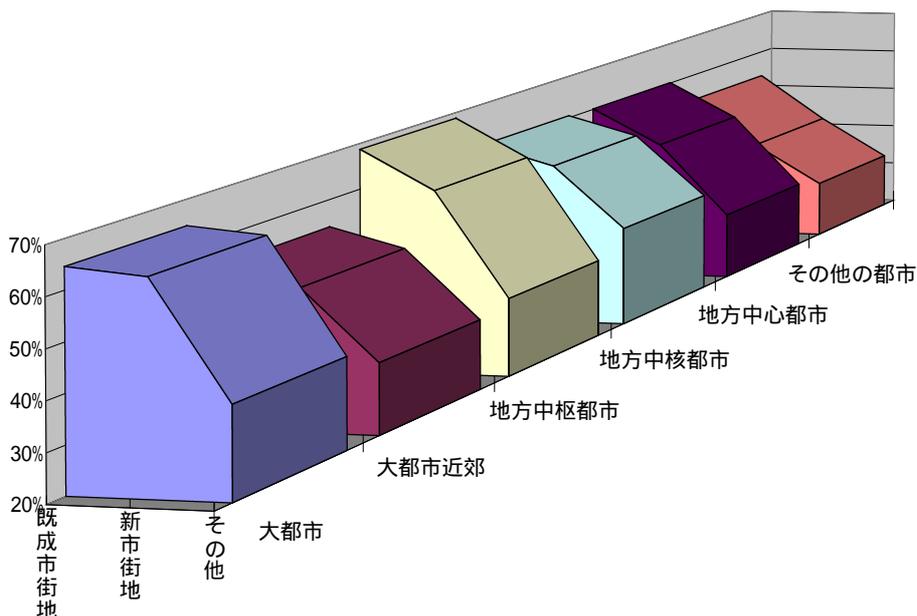
都市計画道路の過去10年間の整備状況の変化をみると、改良率は年平均で約0.7%高くなっているに過ぎず、このまま推移すれば、全てを完成させるのに60年以上を要する。

都市計画街路のうち幹線街路の整備状況の推移



地域別にみると、地方中枢都市の既成市街地の改良率が高く、大都市近郊が低い。

都市規模別幹線街路の整備状況



(1 3) 市街地の道路整備の状況

市街地内の道路の状況は、未だ十分に整備されたものとは言い難い。

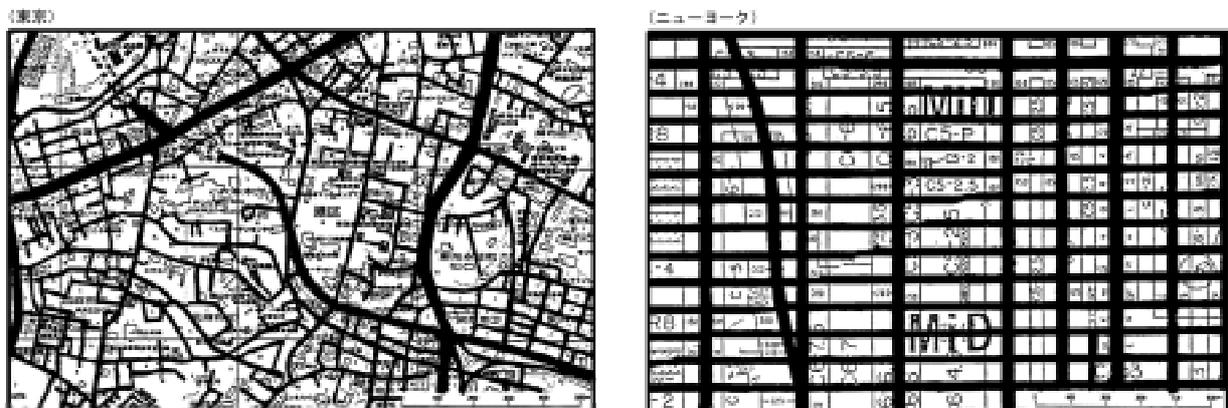
東京都下の都市計画道路の整備率は、平成13年度末で約53%と全国平均よりも若干高い。このうち、主要な幹線道路網の整備状況をみると、未整備の区間が散在しており、ネットワークとしての機能を十分に果たせない状況にある。

東京都の主要な幹線道路網の整備状況(平成12年度末)



東京都心部(4区)とNYのマンハッタンの道路の状況を比較すると、道路率は23%と38%であり、東京都心部は幹線道路や区画道路ともに未整備のものが多く、狭小な宅地が多い。

東京都とニューヨークの道路整備状況の比較



	道路整備状況(道路率)	街区形状について
東京	23%(都心4区(千代田、中央、港、新宿))	道路が未整備な上、狭小な敷地が多い。
ニューヨーク	38%(マンハッタン)	格子状の街区構成が確立している。